

職場体験 感想文コンクール2024

タイトル	仕事体験に取り組んで	事務局	130
学校名	新庄市立新庄中学校	氏名	柿崎 ^{めいお} 彬朗

「ファミマに行ってくる！」普段から気軽に利用するファミリーマート。そこでの仕事体験は、正直、楽勝だろうと思っていた。

最近、みんなが将来に対して深く考えるようになっていた。その中で僕は、考えるどころか思いつきすらしなかった。だから仕事体験はどこでもいいと思っていた。身近で難しくなさそうなものにしようと思っていたところ、ファミリーマートの求人票が目についた。「ここだ」と思い、早速、面接に向かった。合格することができた。友達と一緒に仕事体験先に行くことになった。

1日目は、棚にバーコードをスキャンする仕方や、商品の陳列の仕方を教わった。その時だった。僕は最初に、店長さんの荒川さんに「まずやってみてください」と言われて、なんとなくやってみた。すると、「これだと少しよくないな」と言われた。何がダメなのか不思議だった。商品は、棚に多くおいてあるように見せるために、お客様が見えやすく取りやすい様にするために、品が棚に収まっていて、たとえ棚に余裕ができたとしても、同じ商品を並べると良いのだということを知った。いつも普通にファミマで買い物をしていたが、この環境はファミマの定員さんたちが作っているものだと知り、こんな細かなところまで工夫してやっているのだと驚いた。

次に店内の掃除をした。最初に僕は掃除をした。掃除ぐらいは自分もやっているから大丈夫だと思っていたが、店内が予想以上に広く、棚の下などはかがんでモップを入れられないといけないので、予想以上に体力を使った。掃除と言っても、お客様さんが入ってくるので、ゴミなどが邪魔にならないようにしなければならぬので、とても時間がかかった。

さらにファミチキを揚げた。最初のうちはこれがファミマの主な仕事の一つだと思っていたので、とても不思議な気持ちになった。しかも、種類によっては、ファミチキはなんと6時間で廃棄処分してしまうため、処分するのなら僕たちが貰いたいと思っていた。ファミチキなどの商品は作った時間、作る個数を書き、そこから処分する時間を書かなきゃいけない。いつもならなんとなく買っているファミチキが、作るだけでもこんなにも大変だとは思わなかった。作り終わったら3分間の時間を開けて置いておかなければならない。その3分の間にまた違う種類の物を作らなきゃいけないかたたりした。そのため休んでいる時間など全然がなかったのであった。

ファミチキが出来上がったら、いつもファミチキや揚げ物、焼き鳥が入っているレジの隣の棚に入れた。僕はこの時が一番緊張した。何故なら、頑張って作ったファミチキや揚げ物が、間違えて転げ落ちてゴミになってしまったらどうしようや、弁償になったらどうしようなどと考えていたからである。手が震えてしまった。棚に無事に入れた時は達成感があった。

2日目は、昨日と同じでバーコードをスキャンした商品を棚に陳列するところから始まった。1日目の経験を生かしてお客さんに見やすい陳列を目指した。しかし、2日目はトラックから商品が送られてきた。1日目に店長さんから言われていたものの、想像を絶するほどの量にビックリした。段ボールが大量にあり、商品棚にはどうも入りきらない量で、違う棚にも入れないといけないぐらいの量だった。それでも入らないものは段ボールの中に入れて裏の倉庫に入れられないといけなかった。

陳列がすべて終わったら、ジュースやビールなどが入っている棚の裏側に入って陳列をした。その時だった。僕はそこに入るのがファミリーマートで体験をする上での一つの夢だった。24時間そこに入れておくため、冷房がキンキンに冷えていた。外は暑くて最初のうちはここがとてもよかったけれど、時間が経つにつれて寒く感じてきて、手の感覚がなくなってきた。定員さんはこんな寒い中で商品の陳列を長い間しているのだなと思った。そこでの陳列は飲み物をレーンの上に乗せて流すという単純な作業だが上の

段に行くにつれて手が届きづらくなっていった、どこにどれがあって、どこにどの商品入れるのかを探すのも一苦勞だった。

飲み物の陳列が一通り終わったら、昨日と同じようにファミチキ揚げと掃除をした。2日目の掃除は、最初は友達に取り組んだ。僕はファミチキを揚げた。1日目と同じように袋から冷凍されたファミチキを取り出して油の中に入れた。その時、僕はいろいろなファミチキの種類に出会った。ファミチキだけでも3種類ぐらいあり、差がわからず、揚げる種類を間違えかけたりすることもあった。その他にも、作る個数によって時間が大きく変わってしまい、時間を計算した上で、種類によって時間を変えることがとても大変だった。最後にレジの練習モードというものでレジ打ちの仕方などを教わった。これが僕たち一般客の思うファミマ定員さんであり、今回の仕事体験の中心だと思っていたけれど、レジを打っている時間なんてとても少ししかなくて、他の商品の陳列や掃除、ファミチキなどの揚げ物を作るほうがよっぽど時間がかかって大変だという事が分かった。

仕事体験が終わってから、僕はこんなに身近にあるにもかかわらず、裏では定員さんの汗と涙があつてこそ、安心して利用できるファミリーマートであったということを知ることができた。ここまで大変な事を毎日6時間ぐらいやっている定員さんのことを思うと、とてもすごいのだなと思った。そして、僕はこんな細かなところまでしっかり見て、お客さんの事を第一に思う事のできる大人になりたいと思った。